

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの未来と安全が第一に守られ、気力・体力そしてチャレンジ意欲を有する自立した生徒集団が、規範意識や公共の精神を尊重しつつ、学校力（学校がもつ総合的な力）を高めていく学校。

- 1・生徒の自主性を育て、自ら判断し、行動でき、段取りする力をつける。
- 2・自尊感情を育て、他の人を大切にする心豊かな生徒集団をつくる。
- 3・保護者や地域の皆さんの期待と支援に実績で応える。

2 中期的目標

1、確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、確かな学力の育成のため、「わかる授業、伸ばす授業」への授業改善をめざす

- ア 生徒が個々の将来像に基づいた学習計画を設定できるよう、選択科目の精選と充実を図るとともに、目標達成を支援する教科特別講習を充実させる。
- ※ 平成 28 年度までに生徒が希望する各方面への進路実現に資する選択科目をグループ化・ユニット化して示せる、無理や無駄のないカリキュラムを再構築する。
- イ ICT 機器やネットワーク環境を充実させ、ICT を活用した授業の実施を推進・拡大する。
- ※ 平成 28 年度には 30% 以上の教員が ICT を活用した授業を実施できるようにする（平成 26 年度 27%）。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度に対する肯定的回答を、平成 28 年度には 85% にする（平成 26 年度 74%）。

2、すべての生徒の夢と志を継続させる

(1) 広い意味でのキャリア教育、人権教育の観点を取り入れた進路指導計画を作成し、学校全体の指導の柱にする。

- ア 現状の学年毎の計画から高校 3 年間を見通した計画へと整理し、さらに大学等への進学後のキャリア状況も織り込んだロードマップを作成する。
- ※ 卒業生の進学後の追跡調査を実施し、その分析結果を反映させた進路指導資料を作成する。それを活用することで、学校教育自己診断のキャリア教育に関する肯定率を平成 28 年度までに 85% 以上にする（平成 25 年度 77%）。
- イ 学習面を危惧することなく部活動ができる仕組みや環境の整備を続ける。
- ※ 平成 26 年度以降も、部活動加入率 90% を維持し、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を平成 28 年度には 80% 以上にする（平成 26 年度 66%）。
- ウ 難関大学・人気大学への進路を希望する生徒を支援する指導体制の充実をはかる。
- ※ 平成 29 年度までに国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への進学者数を卒業生の 50% に（平成 25 年度は 40%）。
- (2) 地域貢献・地域連携を通じて生徒に自己有用感をもたせ、地域の教育力向上にも貢献する取組みを実施する。
- ア 近隣施設や小中学校と連携した事業を行うとともに、保護者の人材・地域の人材を積極的に取り入れた取組みを実施する。
- ※ 平成 28 年度までに合計 2 件以上の新規取組みを設定する。
- イ EFHS の取組みをベースとした、将来につながる教育の推進を行う。
- ※ 平成 28 年度までに、のべ 10 名以上の生徒が地域連携によるグローバルな人材育成に関わる事業へ参加するようにする（平成 26 年度 5 名）。

3、生徒理解の促進と相談体制の充実

(1) 生徒を把握し緊密な人間関係を構築するため、個別の指導・相談体制を整備する。

- ア 「生徒への理解を深める」を基本テーマに教職員研修の内容を精選し、教職員のカウンセリングマインドの醸成をめざす。
- ※ 相談室・保健室での相談以外に、多様な課題について生徒が相談できる機会を提供し、平成 28 年度までにチャンネル数を 2 つ以上増加させる。
- イ 生徒会活動を積極的に支援し、生徒からの情報発信によって「自らが考え行動できる牧野高校生」を育成する。
- ※ 生徒会活動・学校行事への肯定的評価を平成 28 年度までに 90% 以上に向上させる（平成 26 年度 79%）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <p>・一般的授業に関しては、進度・内容に満足している生徒が 72% で 2 ポイント、保護者も 71% で 3 ポイントの漸減となったが、進路関係の講習・補習が適切であるとする生徒は 78% と 2 3 ポイント激増している（保護者は 78% で 3 ポイント増）。これは中期的目標のうち「確かな学力の育成」に注力する学校の姿勢が、生徒・保護者両方に伝わった結果と考える。自宅学習時間が 2 時間を超える生徒は 40% で 2 ポイントの増であるが、まだまだ高校で求められる学習量を確保できている生徒は少ない。高い部活動加入率とのトレードオフになると考えられるが、部活動と学習を両立できる「文武両道」を目標に指導を進める必要がある。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・生徒の学校への満足度は依然として高い(94%で変わらず)。</p> <p>・生活指導についても、適切だと考えている生徒が 80% で、5 ポイント減ではあるものの高い水準である。この減については道路交通法改正に合わせて、自転車の傘さし運転を一掃する強い指導を行った影響の可能性が考えられる。保護者では生活指導について 92% が肯定的で、昨年度と同じであることから学校の指導方針に一定の理解が形成されていると考えられる。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・特に創立 40 年を経た本校の施設設備について、生徒は 70% が良好と見ているのに対し、保護者は良好との回答が 63%、つまり 4 割近い保護者が施設設備になんらかの不備不満を感じている。予算の確保が難しい状況であるが、不満等の内容を調査して少しずつでも取り組む必要がある。</p>	<p>(第 1 回) 平成 27 年 7 月 15 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を進めておられるが、さらに関係を深めていただきたい。 ・卒業後どこまで伸びるか。学校の勉強だけでなく自分でやることのできる「生きる力」をつけてほしい。40 年の伝統を活かし、活躍している OB の活用を図る。 ・理系に力を入れていることわかるカリキュラムを外に打ち出しては。 ・良い環境、雰囲気の中で、学習・部活動・行事に頑張り、文武両道を実現している。 ・自転車通学の事故、賠償が心配である。安全教育を進めて欲しい。 ・18 歳選挙権に伴う意識付けをし、実感させる必要がある。 <p>(第 2 回) 平成 27 年 12 月 16 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学について、安全性、雨天時対策等の工夫について ・生徒の安全を守るための方策（防犯カメラ等）が必要である。 ・生徒の自主学習を、更に発展させて欲しい。 ・生徒が「あいさつ」をできるようにして欲しい。内では元気だが、外部に発信ができていないのではないか。地域でのあいさつができるように。 <p>(第 3 回) 平成 28 年 2 月 22 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実感を得させる学習の取組みを行っていただきたい。 ・英語教育についても、キャリア教育との関連を踏まえた意識付けをしていく必要がある。 ・関西外国語大学と連携した留学生との交流を進めてはどうか ・災害時など、地域における高校生の役割を考えてほしい。 ・18 歳選挙権に向けた取組みを続ける中で、地域との連携を深めてはどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、伸ばす授業」への授業改善をめざす。</p> <p>ア 選択科目の精選を図るとともに、教科特別講習を充実。</p> <p>イ 校内ネットワーク環境を充実させ、ICTを活用した授業の実施を推進。</p> <p>ウ 授業アンケートを活用した授業改善の推進。</p>	<p>ア・基本問題検討委員会、カリキュラム委員会等で検討した結果を基に、進路実態に即した選択科目の精選・充実を図り、ユニット化モデルの研究・作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で基礎力養成・応用力伸張のための特別講習と生徒個々に応じた特別指導を実施し、生徒の進路実現を支援する。 <p>イ・学校のネットワーク環境をタブレット型PCに対応できるよう整備を進め、タブレット型PC用のソフトウェア資源を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員のICTスキルの向上に努め、ICTを活用した授業を校内で奨励する。 大学進学状況を文系/理系のバランスがとれた形にするため、理系（特に情報工学や医療系）に興味関心を持つ生徒のための補習や説明会を強化するとともに、ICT関連資格・プログラミング・ロボット工学等に関連した教材を学校として準備して生徒希望者に利用させる。 <p>ウ・授業アンケート（7月、12月）の1回目で課題を把握し、2回目を検証と位置づけて授業改善を推進する。</p>	<p>ア・国公立大学と、関西大学・同志社大学・立命館大学・関西学院大学・近畿大学等の人気私立大学進学者数合計140名以上。（平成25年度国公立17名/8学級、上記私立大進学者112名）</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果におけるICT関連項目での満足度70%以上。（平成26年度53%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 理系合格者の比率を35%以上に。（平成26年度32%） ICT関連教材活用生徒数をのべ100人以上にする（新規）。 <p>ウ・2回目の授業アンケート項目9（授業による知識・技能向上）の評価値平均を3.15以上にする。（平成26年度3.12）</p>	<p>ア・国公立大学進学者合計19名、人気私立大学進学者合計154名となっている。次年度は1年生段階での進路に対する意識付けを強化することで、生徒の授業に対する意欲をさらに向上させたい。（○）</p> <p>イ・生徒向けのICT関連項目で満足度47.8%。ICTを活用した授業は少なくないが、PCとプロジェクターを組み合わせやすいよう、教室へのプロジェクター設置を進めるなど環境整備を強化したい。（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> 理系合格者の比率は30%程度であった。（△） ICT関連教材は準備できたが希望生徒が少なく、実施を見送った。次年度は担任から個別に呼びかける形で募集強化する。（△） <p>ウ・第2回の授業アンケート項目9（授業による知識・技能向上）の評価値平均は3.07であった。（△）</p>
2 すべての生徒の夢と志を継続させる	<p>(1) キャリア教育の観点を含む進路指導を実施。</p> <p>ア 大学等進学後のキャリアも織り込んだ指導の実施。</p> <p>イ 学習面を危惧することなく部活動ができる仕組みを整備する。</p> <p>(2) 地域連携を通じて生徒に自己有用感を持たせ、地域の教育力向上にも貢献する。</p> <p>ウ 近隣諸学校・施設との連携事業や、地域人材を活用した取組を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・本校卒業生が大学等を卒業後、どのように社会で自己実現しているかを追跡把握し、進路指導に活用するとともに、中学生向け学校説明会等の広報活動においても、中学生・保護者にフィードバックする取組を続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関する校内外の研修参加・研鑽を推奨し、PTAとも研修で連携することでキャリア意識の醸成に家庭の協力をあおぐ。 <p>イ・部活動に参加する生徒が、土曜や放課後に学校で自主学習できる仕組みを充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動に加えて学習面等でプラスαの成果をあげた「文武両道」達成生徒の顕彰機会を複数にして継続する。 <p>(2)</p> <p>ウ・昨年度拡大した英語関連の近隣小中学校等との交流・連携を安定・充実したものにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援学校や福祉施設との交流事業に参加する生徒を増やし、実際の体験から自己有用感を得させる。 さまざまなチャンネルによる情報発信を通じて学校のイメージアップを図り、生徒の帰属意識が自己有用感に繋がる道筋を作る。 創立40周年記念事業を契機として対地域イメージアップの実現。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学校教育自己診断結果におけるキャリア教育関連の項目での肯定率85%以上をめざす（平成26年度は86%）とともに校内外研修参加のべ人数（保護者を含む）を100人以上にする（平成26年度16人）。</p> <p>イ・1日あたりの自主学習参加者平均25人以上。（平成26年度20人）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間生徒顕彰者数20名以上をめざす。 <p>(2)</p> <p>ウ・拡大した小中学校との英語による全連携事業の複数回開催を実現。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した生徒対象の講演等の取組を2回以上実施。 進路実現に対する期待度を中学生向け学校説明会等でのアンケート調査で確認。80%以上をめざす。（新規） 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学校教育自己診断結果における進路指導・キャリア教育関連の項目での肯定率84.2%。キャリア教育に関する校内外研修参加のべ人数（保護者を含む）は104人。（○）</p> <p>イ・1日あたりの自主学習参加者平均25人。年度途中で自主学習会場を図書室としてキャパシティをさらに増やした。部員の学習参加をさらに勧めるよう、部顧問の協力を強化したい。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間生徒顕彰者数30名（○） <p>(2)</p> <p>ウ・小中学校との英語による連携事業を5回開催。次年度は事業の拡大に対応できるよう、担当スタッフの充実を行う予定。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> 枚方青年会議所と連携した18歳選挙権に関する取組を6回実施。次年度は府教委の指導に沿った形に調整を行いたい。（◎） 中学生の進路実現に対する期待度は91.1%。「兄や姉が行って学校の良さがわかった」という弟妹が本校を志望する例が少なくない。ここに着眼して、次年度の中学生への情報発信を研究する。（◎）
3 生徒理解の促進と相談体制の充実	<p>(1) 「安全安心な学校づくり」を進め、個別の指導・相談機能を強化する。</p> <p>ア 「生徒理解を深める」ための教職員研修を精選し、カウンセリングマインドの醸成をめざすとともに、心身の健康管理体制の充実にも努める</p> <p>イ 生徒会活動等を積極的に支援し、生徒からの情報発信によって「自らが考え行動できる牧野高校生」を育成する。</p>	<p>ア・「安全安心な学校づくり」に向けて、バリアフリー、ジェンダーフリー、ネットいじめ、セクハラ等の比較的新しい人権上の課題について、意識向上のための校内研修を実施する。また、校内施設設備でこれらに関わる部分が不十分であれば迅速な改善に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員のカウンセリングマインド醸成に資する校内・校外研修への参加を奨励する。 校内研修を、学校保健会や人権研修等を有機的に連携させ、精選したものにする。 医療機関以外のサポート機関と連携するなど、生徒支援に外部専門家を積極活用する。 地域連携も可能な総合的な健康管理体制を作る。 <p>イ・創立40周年を機に、行事の精選・充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念事業の企画・立案・準備等のプロセスに積極的に生徒の参加を呼びかけ、節目となる事業に関する過程を生徒自身に情報発信させ、次の生徒参加への連鎖を形成するようにさせる。 	<p>ア・比較的新しい人権上の課題についての校内研修を実施する（1回以上）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個の支援やカウンセリングに関する校内外研修等への参加者のべ数50人以上を維持（平成26年度53人）。 生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談への肯定率80%以上。（平成26年度75%） 健康に関わる情報収集と提供のための新たなチャンネルを組織化し情報等を共有する。（年2回以上、連絡会議を開催） <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果の学校行事に対する肯定率90%以上を維持（平成26年度92%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念事業関連会議等参加生徒数のべ100名以上。 	<p>ア・LGBTに関する人権上の課題についての研修を、中学校担当者の参加可能な形で連携実施した。次年度はバリアフリー、ジェンダーフリー、ユニバーサルデザインからエコスタイル等までも含んだ、（施設・設備においても）「安全・安心で、人に優しい学校づくり」に取り組む予定である。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 個の支援やカウンセリングに関する校内外研修等への参加者のべ数は100人以上となった。（◎）。 生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談への肯定率70.3%。次年度はSCと担当分掌（保健部）との連携を進めて「安全・安心で、人に優しい学校づくり」に取り組む。（△） HPVワクチンに関して、生徒の健康状態の見守りを継続案件とし、収集した情報等を共有するようにした。（○） <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果の学校行事に対する肯定率92%超となった。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念事業関連会議等参加生徒数のべ300名。（◎）